

TTC提案山行実施記録

[2025年12月12日 M.H.作成]

1.山行計画名	熊野古道ウォーキング(中辺路コース)					[和歌山県]
2.実施日	2025年11月29日[土]~12月2日[火] 3泊4日					公共交通機関利用
3.天候/参加人数	天候 晴れ レベル★★☆ 参加人数11名(男性4名、女性7名)					
4.パーティスタッフ	(省略)					
5.参加者	(省略)					
6.費用 61,530円/人 カンパ金980円	小田原~新宮(指定席)￥16,150 紀伊勝浦~小田原(指定席)￥15,680バス代￥2,970(新宮駅→本宮大社前￥1,560、本宮大社前→発心門王子￥470、本宮大社前→川湯温泉￥310、那智の滝前→紀伊勝浦駅￥630)宿泊代 ￥26,550(ステーションホテル新宮)￥6,400、民宿立石￥11,150、小口自然の家￥9,000、お弁当代含まず)合計 ￥324,720+通信費 ￥1,000=￥325,720 一人当たり ￥29,700 ￥980はカンパ金					
7:計画と実施時間	日付	ガイドブック歩行時間	歩行時間	休憩時間	行動時間	
	11/29[土]	-	1:20	1:05	2:25	
	11/30[日]	2:30	2:04	2:56	5:00	
	12/1[月]	6:40	4:15	1:45	6:00	
	12/2[火]	8:00	6:25	1:30	7:55	
8:実施コースタイム	<p>11/29[土] 小田急 ひかり 633号 南紀3号 20' 30' 30' 本厚木==小田原==名古屋==新宮==熊野速玉(はやたま)大社==神倉神社==ステーションホテル新宮 7:12 7:51-8:07 9:14-10:01 13:37-14:05 14:25-15:00 15:30-16:00 16:30</p> <p>11/30[日] バス WC 30' 32' ステーションホテル新宮==新宮駅バス停==本宮大社前バス停==発心門(ほっしんもん)王子==水呑王子== 6:00 起床-7:20 7:30-7:46 9:07-9:20 9:35-9:50 10:20-30 WC 19' WC 43' 昼食 バス --伏拝(ふしおがみ)王子--三軒茶屋跡--熊野本宮大社==本宮大社前バス停==川湯温泉バス停==民宿「立石」 11:02-23 11:42-52 12:35 (フリータイム) 14:27 14:38 14:50</p> <p>12/1[月] 1:10(休 10') 40' 35' 昼食(宿弁当) 50' 1:35(休 25') 民宿「立石」==請川バス停==松畑(まつはた)茶屋跡==百間嵐==石堂茶屋跡==桜茶屋跡==小口自然の家 6:30 起床-8:10 8:20-8:30 9:40-45 10:25-35 11:10-50 12:40-55 14:30</p> <p>12/2[火] 1:10 1:18(休 10') 50' WC 52 昼食(宿弁当) 1:05 25' WC 小口自然の家--楠ノ久保旅籠跡--越前峠--地蔵茶屋跡--色川辻--登立茶屋跡--那智高原公園-- 朝食 6:00-7:00 8:10-17 9:35-40 10:30-38 11:30-52 12:57-13:00 13:25-13:45 20' 15' 20' バス 南紀8号 夕食 ひかり668号 小田急 --熊野那智大社--那智の滝--那智の滝前バス停==紀伊勝浦==名古屋==小田原==本厚木 14:05-15 14:30-35 14:55-15:09 15:33-17:11 20:49-21:39 22:53-23:04 23:42</p>					
	9. コース概要・特記事項・反省事項等					

〈コース概要〉

- 1日目:新宮ステーションホテルから歩いて速玉大社に着いたが、観光客は多くなく、静かに見学することができた。鮮やかな朱色の社殿が印象的だった。次のゴトビキ岩をご神体とする神倉神社に着いて階段の様子に皆驚いた。大小いびつな岩が組み合わさっていて段差も大きく、距離も長かった。息を切らしながら登り切ると海と町が見渡せたので登ったかいがあったと感じた。町は人通りもほとんどなく、夕食を摂る場所を探すのに苦労した。
- 2日目:ホテル近くからバスに乗り、発心門王子から2時間ほど歩いて本宮大社に着いた。落ち着いた色合いの社殿だったが、全体のつくりは速水大社とよく似ていた。水呑王子からは、両側が杉木立て石垣が続き、これぞ熊野古道という雰囲気になった。途中、白装束の御遍路さんやほら貝を吹く人などに出くわしたのでより古道を味わうことができた。バスで川湯温泉の民宿「立石」に向かった。「川湯」と言うだけあって河原には露天風呂が設置されており、さっそく湯浴みを借りて湯につかって。宿のすぐ隣には公衆浴場もあり、無料で入ることができた。夕食は豪華で食べきれないほどだった。
- 3日目:川の石を重機で取り除いて大きな温泉を作り、朝6:30から、「仙人風呂」がオープンするというので何人かが入浴した。外国人客も気持ちよさそうに浸かっていた。民宿から請川バス停までは、宿の車2台で送ってくれたので助かった。そこから、ずっと上り坂が続き、4時間以上歩いて小口自然の家に着くことができた。廃校になった小学校を宿泊施設に改造しており、自分が小学生だったころを思い出して懐かしかった。食事のアナウンスが1番先に英語だったので、びっくりしたが、宿泊者はほとんど外国人だったので納得した。

4日目:

標高差1400mの登り、歩行時間16キロというハードな行程を考え、二手に分かれて行動することにした。計画通りに歩くグループと、タクシーを使って地蔵茶屋まで行き、そこからは計画通りに歩くグループである。前日 タクシーを予約していたので、4名はゆっくり宿を出て地蔵茶屋へ向かい、そこからゆっくり那智高原公園に着いた。10分もしないうちにもう一つのグループが公園に到着し、合流して那智大社に向かった。

（以下は計画通りに歩いたグループの CL の記録）

「朝食は15分早く6時から食べることができたが、小口自然の家を予定より15分ほど遅れて出発。登山口（古道入口）はわかりやすく、登り始めは、石段の急登から始まった。30分ほど登ると平坦な道になり、楠ノ久保旅籠跡に辿り着いた。しばらくすると緩やかな登りが始まり、石がゴロゴロした、階段状の石畳の登りが続いた。この登りには平坦な道ではなく、小一時間も続くと皆息が上がり、途中2度ほど立ち休憩を取りながらゆっくりと登った。

※この登りは、かなり長く（50分くらい？）、我々を追い越した人も途中でばて気味になるほど、きついものであった。越前峠を越えると明るくなり、道もアップダウンを繰り返して地蔵茶屋跡に出た。途中、舟見茶屋跡に立ち寄ったが、初めて見える遠望（海と起伏に富んだ島々を見下ろす）に、一同感嘆の声を漏らした。」

那智大社に着き、観光客の多さに驚いた。社殿は色鮮やかで立派であった。三重塔と那智の滝の眺めは素晴らしいものだった。滝は133メートルの落差を持ち、一段の滝としては日本一、華厳の滝、袋田の滝と並ぶ三大名瀑の一つと言われるだけあって見事だった。

本来なら、全員が一緒に行動しなければならないところではあるが、今回、二手に分かれて行動したことは結果的によかつた。タクシー組は、新幹線に乗り遅れるのでは？という不安もなく、安心してゆっくり歩くことができた。下山後も時間的にゆとりがあり、温泉に入ったり、夕飯を摂ったりすることができた。

〈特記概要〉

熊野三山は世界遺産にも認定されており、唯一無二の文化的景観、雄大な自然と信仰が一体となった神秘的な雰囲気、歴史的な史跡が今も残っていて、特に中辺路はとても人気のあるコースだった。熊野詣はよみがえりの旅といわれ、速玉大社が「過去」熊野那智大社は「現在」熊野本宮大社は「未来」とつかさどると言われ、長い道のりを巡礼する中で、自分の過去、現在、未来を見つめなおす、新たな気持ちに生まれ変わることが熊野信仰の意味することだということを初めて知った。また、中辺路以外にもいくつかのルートがあり、メンバーの中からは「来年は大辺路に来たい。」という声も聞かれた。